

日本家族性腫瘍学会 2017 年度第 2 回理事会 議事録

日時：2017 年 8 月 3 日（木） 16:20～18:50

場所：札幌医科大学 基礎医学研究棟 5 階 会議室 2

出席予定者： 富田尚裕、菅野康吉、田村和朗、青木大輔、石川秀樹、石田秀行、大住省三、鈴木眞一、武田祐子、田村智英子、松原長秀、三木義男、村上好恵、数間恵子（監事）、執印太郎（監事）
事務局、編集事務局：飛松

議事：【報告・審議事項】

富田理事長より各種委員会は報告と審議を一度に行うよう指示があった。

1. 事務局から 2017 年 7 月 31 日時点の会員数、新規入会者数、会費納入状況について報告があった。また新規入会者リストの提示があった。

2. 各種委員会報告

①菅野理事より同日 11 時から会則委員会と合同で開催した総務委員会報告があった。

4 月の社員総会での平成 28 年会計報告及び平成 29 年予算案について総会時に齟齬の指摘もあり、再度見直しを行ったところ、いくつかの不明・不備な点があり、事務局及び税理士事務所に修正を申し入れ、修正版の提出を受け、問題ないことを確認した。

また、以下について提案があり、審議を行った。

1) 総務会の設置についての細則を制定

会則委員会による定款施行細則の整備に合わせ、本法人の運営を円滑に行うための総務会を設置する細則を制定し、組織してはどうかとの提案があり、審議の結果、会計のみか会全体を見るのかや、その年度の事案によって総務会メンバーを増やすなどしてはどうかなど、複数の意見があり、設置は必要との方向で、詳細は継続審議とした。

2) 委員会開催に関する内規の制定について下記提案があった。

各種委員会、理事会、評議員会は学術集会前日に開催するものとし、各種委員会は 9 時または 10 時から開始する。委員会日程は当日の 2 ヶ月前までに決定する。前泊が必要な場合は宿泊費用を学会が負担する。

上記提案を受け、意見交換を行った結果、朝からの開始は必要と考えられるが、前泊の予算について、予算申請が必要であり、詳細については継続審議とする。

3) 評議員の任期と理事会及び各種委員会活性化についての提案があり、評議員について、検討事項になっていた選挙制ではなく、従来通りの選出方法で進める形で、活性化を図るためには評議員の定年制かつ有期の資格としてはどうかとの提案があり、審議の結果、具体的にどの様に定款・細則に掲載するかを示し、次回理事会に提示してもらうこととした。

4) 理事選挙についての細則について、選挙管理委員会の設置などは法人化以前の規約細則の規定に準拠することが決定した。

5) 定年制の規定についても定款変更案の作成を進めることとした。

6) 評議員推薦の無い新規入会者が増えており、その申し込みの扱いについて、審議を行った結果、原則として、評議員推薦を必要とする形とし、その旨ホームページの掲載内容を更新し、ホームページに掲載の評議員名簿に所属を追加することとした。

②財務委員会 青木理事より、2016 年特別会計修正版について説明があり、承認された。

また第 22 回学術集会会計についても説明、承認され、両方について、監査を受けたことが報告された。評議員会へ諮ることとした。

前回社員総会での齟齬・不備の修正を行った、2017 年度 収支予算案について説明があり、特別会計・一般会計を分ける点について、定款に記載がないが、問題ないかとの質問があり、その点を規則で縛ると運用がしにくいのではないかなど、意見交換、審議の結果、定款・施行細則には記載しないこととした。

③石川理事より将来検討委員会から部会設置についての細則案制定について提案・説明があった。いくつかの修正点説明もあり、承認された。誤植など、再確認、修正の上、会則委員会へまわすこととした。部会補助金については、予算を組み、申請を行うこととする。

④鈴木理事より会則委員会報告があった。定款施行細則ができていなかったため、次回理事会に間に合うように作成して、提出を行うとのこと。

- ⑤田村和朗理事より専門医・FCC 制度委員会報告があった。FCC 小委員会では川崎優子委員長のもと、FCC のあり方を検討しており、標榜できる様な方向で進めていきたい。セミナーとの兼ね合いも検討中とのこと。専門医制度小委員会について、田中屋宏爾委員長のもと構成されている委員会および経緯、試験の流れなどについて説明があった。
- また、認定証サンプルについて提示があり、英語表記など調整し、原則この方向で進めていく形とし、意見があれば、メールで欲しいとのこと。
- ⑥田村和朗理事より家族性腫瘍セミナー委員会報告があった。吉田輝彦委員長のもと、開催準備が進んでいる、第 20 回前期セミナーについて報告があった。
- ⑦石田理事より編集委員会報告があった。次号 17 巻 1 号は 9 月発行を目指している。また、バリエントレポートの案内についてホームページにわかりやすく掲載を行う予定。
- ⑧三木理事より学術・教育委員会報告があった。がん治療認定医機構の教育セミナーを担当しており、8 名の委員を選出し、テキスト・スライドの作成を進めている。ただ、委員の中にがん治療認定医機構の更新対象者がいるため、確認中である。また、学術集会の本部主導の企画については検討中となっている。
- ⑨武田理事より倫理審査委員会報告があった。外部委員を武藤香織先生に依頼したことが報告された。理事会としても承認した。理事長から指示の出ているゲノム変異に関するステートメントについてはまだ進んでいないとのこと。
- ⑩大住理事よりガイドライン委員会報告があった。ホームページリニューアルに合わせて、ガイドラインページを更新した旨報告があった。NCCN のリンクが NG となっている。また、家族性腫瘍の遺伝学的ガイドラインについて次回理事会で提案できるような形で進めている。
- ⑪大住理事より利益相反(COI)委員会報告があった。倫理審査委員会と合わせ、外部委員を武藤香織先生に依頼したことが報告された。
- ⑫松原理事より国際委員会報告があった。トラベルグラント第 1 回の表彰・報告が明日の会員報告会で行われる。第 2 回の募集が開始されている旨、報告があった。また、InSiGHT のほか、ホームページ掲載情報を随時更新していく。
- ⑬遺伝カウンセリング委員会報告は特になし。
- ⑭村上理事より広報委員会報告があった。現在のホームページ内容が乏しいため、充実を図っていく。専門医・認定施設ページの作成も進めていく。医療者向けと一般向けの 2 層化も考えていく。英語ページが必要ではないかとの指摘があり、概要など基本的なページから早急に英語ページの作成を進めていくこととした。

3. 松原理事、田村智英子理事より第 24 回学術集会準備報告があった。

4. その他

・富田理事長・田村和朗理事より、専門医制度開始にあたって、関連学会からの質問状の件について、資料提示・経緯説明があり、意見交換を行った。

- 1) セミナー運用開始時は遺伝関係の学会との関係性を大切にしてきた。
- 2) 本会は遺伝と腫瘍の 2 つからなる学会であるため、遺伝関係の学会の専門医制度とは異なっている。
- 3) 質問状がきた関連学会との面会をしてはどうか。
- 4) 今後は遺伝関係の会も遺伝性連絡協議会に入っていただくような報告で考えてはどうか。

など、いくつかの意見があり、まずは関連学会の事務局にコンタクトを取り、富田理事長、田村和朗理事で面会に向う形で調整することとした。

・田村和朗理事より臨床遺伝専門医制度委員会からの打診について資料提示・説明があった。

G-TAG 株式会社の遺伝性乳がん検査 Color 周知の連携についての資料・説明。商業ベースでの遺伝子検査となる。学会としてどう対応するか意見交換の結果、G-TAG に対する学会としての注意喚起を含めた見解を出すこととし、田村智英子理事担当で検討して、たたき台を作成することとした。

3. 2019 年度 第 25 回学術集会長の選考について審議の結果、理事会推薦として、青木理事・村上理事を推薦することとした。

4. 新評議員推薦が 1 件届いたが、本人の略歴が未着のため、次回審議とする。

6. その他

- ・石川理事より消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上及び均てん化のための研究について学会との合同作業の依頼があり、審議を行った。ガイドライの作成・維持と前向き登録システムの構築・維持について、立ち上げの予算は厚生労働省から出る予定で、継続コストについて学会の協力を得て進めていきたいとのこと。財源などの問題もあるが、前向きに進める方向で、追って理事長より最終回答をすることとした。
- ・学術集会会計の学会会計への組み込みについて、審議の結果、組み込みはまだ早いのではないかとのこと、別会計として開催いただくが、補助金を出していることもあり、監査は行うこととした。

次回理事会について、10月、11月開催の関連学会日程を考慮し、早急に決定することとする。
また、今後、年間スケジュールを設定する方向とし、総務委員会で進めていくこととした。